



<東部療育センター メールマガジン 2010年7月号>

障害児（者）の方への情報提供を行い、生活支援を目指します。

発行 東京都立東部療育センター

<http://www.tobu-ryoiku.jp>



猛暑が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

今回は放射線科から VF 検査という、食べたり飲んだりした時の状態を X 線装置を用いた検査方法について紹介します。

安全に摂食・嚥下リハビリテーションを進めていく上で、重要な検査ですので、参考にして下さい。



1. VF 検査とは

私たちは、日常的に食事をする時に食べ物を歯で噛み砕いて飲み込むという動作を本能的に行っています。喉頭蓋という弁により呼吸する時は開き、食事の時は気管に食べ物が入らない様に喉頭口をふさぎ、食道に流れるように調整されています。

VF (videofluoroscopic examination of swallowing) 検査とは、X 線透視下でバリウムなどの造影剤を含んだ食品を患者さんが食べているときの摂食（食べたり）・嚥下（飲み込む）動態を観察しながら記録する、画像を用いた摂食・嚥下障害の評価法の一つです。当センターの場合、VF 検査は放射線室 27 番 X 線 TV 室で行われています。

2. VF 検査の目的

摂食・嚥下は日常的に行われている自然な生理的運動で、健康なときは特に意識せずに行われています。しかし何らかの異常が起こると、栄養状態を悪化させさまざまな疾病からの回復を阻害し、誤嚥性肺炎の原因となり、またストレスの原因ともなります。この嚥下運動は、食物が咽頭部を通過するもっとも重要なところを、直接観察することができないので、嚥下の評価、治療にあたるスタッフは、患者さんの嚥下に必要な諸器官の状態、嚥下時の症状、むせ込みの様子などから摂食・嚥下障害の原因を推定して対応策を検討します。

VF 検査を行う目的には大きく分けて（1）摂食・嚥下障害の評価（2）治療法の指針を得る、の2つあります。

（1）摂食・嚥下障害の評価

摂食・嚥下障害で最も問題となるのは誤嚥（間違っ て気管に食べ物が入ってしまうこと）です。本来ならば気管に入った食べ物をむせたりして、気管から食道へ戻すことをしますが、むせが困難な患者さんの場合、何事もなかったかのように気管に食べ物が入ってしまいます。このような状態を把握する検査として VF 検査は有用ですし、少しの誤嚥でも検出可能です。

また著しい誤嚥の疑われる患者さんに対しては、少量の造影剤を用いたり食品を工夫することで、検査後の肺炎などのリスクを極力少なくするように努力しています。VF 検査

東部療育センター メールマガジン

発行：東京都立東部療育センター <http://www.tobu-ryoiku.jp/>

個人情報保護方針：<http://www.tobu-ryoiku.jp/privacypolicy.html>

問合せ先：<https://www.tobu-ryoiku.jp/mailphp/inquiry.php>

〒136-0075 東京都江東区新砂 3-3-25

●配信がご不要の方は、下記URLにアクセスして下さい

<http://www.tobu-ryoiku.jp/info/mailmagazine.html>

Copyright (C) 東部療育センター All Rights Reserved.